

島根大学プロジェクト研究 推進機構 『重点研究部門』		平成 2 4 年度		年度報告書		提出日 平成 25 年 2 月 15 日	
① プロジェクト名		山陰地方における地域社会の存立基盤とその歴史的転換に関する研究					
② プロジェクトリーダー		小林 准士		所属		法文学部	
				電子メール		junji@soc.shimane-u.ac.jp	
③ プロジェクトの概要（プロジェクトの最終年度における到達目標を簡潔に記入してください。）							
本研究は、山陰地方を調査・研究の対象として、地域社会の存立基盤とその歴史的変容過程を明らかにすることを課題にしている。具体的には、1 8 世紀から現在までのうち、とくに歴史的転換期に着目し、かつて地域社会が遭遇した存立の危機の克服過程、および山陰地方において人口減少が進行する歴史的要因と地域が抱える課題について明らかにすることを目的とする。そのために、18 世紀末以降における人口の増減と地域的分布の変化を統計学的に把握することを研究全体の基礎作業として位置づけ、これらの変化の要因を各時期に即して分析する。その際には、本地域における諸産業の消長に特に注目し、その要因を市場・産業構造、流通網・交通体系等の変化、経済政策等の検討を通じて明らかにすることを到達目標としている。							
④ プロジェクトのメンバー及び役割							
氏 名		所属(職)		本年度の役割分担			
(プロジェクトリーダー)							
小林 准士		法文学部（准教授）		全体の総括。近世史部分の調査・研究			
竹永 三男		法文学部（教授）		近現代史部分の調査・研究			
関 耕平		法文学部（准教授）		高度成長期以降の産業政策			
作野 広和		教育学部（准教授）		過疎化の地理学的分析			
伊藤 康宏		生物資源学部（教授）		漁業史、勸業政策の分析			
中安 恵一		人文社会科学研究科（修士 2 年生）		19 世紀の人口移動と生業との関わりの研究			
橋本 貴彦		立命館大学経済学部（准教授）		近代以降の統計情報の分析			
廣嶋 清志		法文学部（名誉教授）		統計の人口学的分析			
仲野 義文		石見銀山資料館（館長）		近世の産業史・流通史の研究			

鳥谷 智文	松江工業高等専門学校 (准教授)	近世の産業史・流通史の研究
藤山 浩	島根県中山間地研究センター (研究企画監)	過疎化の地理学的分析と地域マネジメントに関する研究
北山 幸子	立命館大学国際関係学部 (嘱託講師)	高度成長期以降の産業政策

⑤ (1) 本年度の研究計画目標の達成状況及び自己評価

(本年度当初の計画書に書かれた内容に沿って、計画と達成目標を箇条書きにしてください。また、その達成目標の項目ごとにその達成状況を記入し、以下の基準に従って自己評価して下さい。

- A : 目標以上に成果をあげた。
 B : ほぼ目標通りの達成度で予定した成果をあげている。
 C : 計画より遅れ気味であるが年度末には目標達成が可能である。
 D : 年度末までに目標達成は不可能である。

自己評価が B 以外の場合には、その原因についても記載して下さい。 2～3月に行う計画のため未執行の場合には評価を空欄にして下さい。)

計画と達成目標	達成状況と自己評価
(以下、丸括弧内は達成目標を示す) A1 大田市域を中心とした史料の所在調査 (所在が確認されれば整理を開始する) A2 島根県立図書館蔵「石見国安濃郡神原村文書」 の整理 (整理作業を進め目録を作成する) A3 島根県立図書館蔵「内藤正中氏旧蔵資料」の整理 (概要の報告を研究会で行う) A4 近世の宗門人別改め帳のデータ入力 (既入力データの精緻化) A5 大田市域旧村役場文書の統計資料のデータ入力 (2～3の旧村について統計データを作成する)	(自己評価) B A1 石見国邇摩郡今浦の佐々木家(面屋)に近世・近代史料が所蔵されていることを確認し整理作業と写真撮影を行った。また、同国安濃郡波根西村久手の竹下家文書(石見銀山世界遺産センター寄託)の整理作業(目録作成)を行い研究利用も開始した。 A2 昨年度に引き続き目録作成作業を進めた。 A3 昨年度の概要把握に基づき目録作成作業を進めた。 A4 今浦の宗門人別改め帳の入力データの整備を行った。 A5 大田市域の旧町村役場文書の統計資料を写真撮影しデータ入力を進め、研究利用を開始した。また、同文書中の近世文書(刺鹿村)の整理もあわせて行った。
B1 A4,A5の作業をもとに、人口転換期における人口増減の要因と地域的条件による差異の理由を明らかにする。(研究会・学会等での報告と論文の発表) B2 B1に関連して、当該地域におけるコミュニティ・社会結合(コウジュウ・ムラなど)の性格について検討する。(同上) B3 個別地域を対象に19世紀における人口移動の具体相について明らかにする。(研究会・学会等での報告) B4 2000年～2010年の島根県の人口に関する集落・地区データベースをもとに、GISを用いて小地域単位の人口データを地図化する。(同上)	(自己評価) B B1 C2の作業と連携し進行。論文1本(廣嶋(2012)、橋本・山田(2013))。研究会報告3件(本研究例会6月、および法文学部山陰研究プロジェクト1月)。 B2 論文1本を投稿(小林) B3 修士論文として提出。シンポジウムで報告(古代出雲歴史博物館2月) B4 GISを用いた小地域単位の人口データの地図化は完了。ただし、完成したコロプレスマップを用いての分析等については十分に行えていない。一方、島根県内における過疎化の進展や、それに伴う集落の再編・衰退・消滅状況、空き家の活用については研究成果が得られた。
C1 島根県立図書館蔵「県庁引継文書」をもとに、19世紀後半の島根県における産業構成等の特徴を把握する。(研究会・学会等での報告) C2 『邇摩郡治一斑』、『島根県市町村別統計書』などをもとに、20世紀初め頃の島根県及び同邇摩郡における産業構成等の特徴を把握する。(同上) C3 国勢調査、工業統計などのセンサス統計を基に、1950年以降の島根県の産業構成等の特徴を把握する。(同上) C4 干鰯の生産・流通や漁業組合の動向に即して漁業の発展と衰退について明らかにする。(同上)	(自己評価) B C1 論文1本(鳥谷：松江市史研究、2013)。研究会報告1件(鳥谷：プロジェクト研究例会、11月)。出雲地域(旧松江藩領)と石見地域の一部(旧浜田藩領)について分析、考察した。 C2 データベースを作成。研究会報告2件(プロジェクト研究例会6月、および法文学部山陰研究プロジェクト1月) C3 今年度はデータベースの作成準備の期間として位置づけ、5月に島根県公文書センターにて未公開資料を撮影し(工業統計)、国勢調査についてはデータベースの作成中。 C4 論文2本(伊藤2012、2013)、研究会発表1件(水産史研

C5 19 世紀～20 世紀初めにかけてのたたら製鉄の盛衰とその要因について明らかにする。(研究会・学会等での報告と論文の発表) C6 粗陶器、瓦の生産など窯業の展開について明らかにする。(研究会・学会等での報告)	研究会 2012)、プロジェクト研究例会 9 月、漁業組合に関する研究は『島根県漁業基本調査報告書 漁村調査ノ部 下巻』(島根県内務部、大正 3 年刊)所収の邇摩・安濃両郡の和江浦(静間村)、魚津浦(静間村)、五十猛村、宅野村、仁万村、馬路村、湯湊浦(湯里村)、温泉津町、小浜(大浜村大)、福光村、今浦(福浦村)、吉浦(福浦村)の全 12 漁業組合のデータ入力完成。久手・竹下家所有住吉丸勘定帳のデータ入力中(安政 2 年・同 4 年・文久 3 年分)。森山家文書(邇摩郡宅野村)仕切帳データ整理(明治 12 年「仕切船中勘定帳」済)。 C5 論文 2 本(鳥谷：芸備地方史研究、2013、同：奥出雲町文化的景観、2013)。学会報告 1 件(鳥谷：たたら研究会、12 月)近世後期から近代にかけてのたたら製鉄業の特徴を田部家文書、絲原家文書、ト藏家文書などから示した。 C6 計画 C1 と C2 の作業と連携し進行。研究会報告 1 件(法文学部山陰研究プロジェクト 1 月)。明治初年における粗陶器、瓦の生産地域を海浜部と特定し、山間部で行われるたたら製鉄業との地域的な違いを示した。
D1 初代松江市長福岡世徳による地域振興策の特徴と歴史的意義について明らかにする。(研究会・学会等での報告と著書の刊行) D2 現代における隠岐海士町の地域振興策の特徴について明らかにする。(同上)	(自己評価) B D1 研究会報告 1 件(プロジェクト研究例会 7 月)、山陰研究ブックレットとして刊行予定(3 月)。 D2 論文 2 本(橋本(2012)、松尾・橋本(2012))、学会報告 2 件(日本島嶼学会、プロジェクト研究例会)という成果。著書刊行については出版社と交渉中。
(2) プロジェクト全体の自己評価 (プロジェクト全体としての達成目標から、今年度の研究成果がこれまでの経過・成果にもとづいてどの段階にあるのかを明示して下さい。また、各グループ間での連携状況についても記入してください。)	
●プロジェクト全体評価(自己評価) プロジェクト全体としての達成目標に対する今年度の研究成果の達成状況について(自己評価) 歴史資料の所在確認や個人蔵、機関蔵の文書の整理と目録作成、及び研究に利用する資料の写真撮影などは定期的に実施し、ほぼ予定通りに進んだ。また、写真撮影した資料に載る情報を、エクセルを用いてデータ入力する作業についても、事務職員等の協力を得て順調に進んでいる。そして、これらのデータをもとに統計分析を進め研究成果へと繋げるところまで来た。 一方、グループごとの分析も、研究者個人による資料調査やデータ入力に基づき行っている。近世・近代における産業の分布と動向、廻船の動きによる流通の状況、特定地域の人口推移とその文化伝播等への影響、近代における人口転換期の人口動態、現代における過疎化と無住化集落出現の状況などについておおよそ把握することができた。また、近代になってからの松江市における地域振興策や、現代における隠岐島海士町の産業振興の取り組みについての検討も進み、著書を刊行するなどした。 したがって、年度当初に立てた調査研究の目標については、概ね予定通り進行していると判断している。	
●各グループ間の連携状況 歴史資料、統計資料の所在調査、及びそれらの整理・目録作成、写真撮影については共同で実施しており、統計資料のデータ入力についても、事務職員を含めてメンバーが分担しながら進めている。そして、こうした基礎作業から得られた資料や情報をもとに、各学問分野の視点に基づき分担しながら分析を進めている。また、月 1 回ペース(年度始め、年度末を除く計 8 回 10 報告)で研究例会を実施して研究成果をメンバー間で共有するとともに、議論を通じてプロジェクト全体の課題を明確化することに努めてきた。今後は、こうして得られた成果をどのように総合化していくかが課題である。	

⑥ 公表論文、学会発表など（当該研究に関連した本年度の公表論文、学会発表、特許申請の件数を一覧表に記入して下さい。発明等に関しては、差し支えない範囲で記載して下さい。）

論文掲載（総件数）	16
学会発表（総件数）	4
特許出願（総件数）	0

【内訳】

●論文（年度末までに発行される学術雑誌等（紀要も含む）に掲載が確定しているものも含め、代表的なものを10件程度選んで記入してください。）

- ・鳥谷智文「近世後期におけるたたら製鉄業の展開―出雲国松江藩領を中心に―」、『芸備地方史研究』第284号、2013年2月掲載予定、依頼原稿（査読無）
- ・鳥谷智文「明治初年出雲地域における郡別産物の特徴」、『松江市史研究』第4号、2013年3月掲載予定、査読無
- ・鳥谷智文「近代における鉄師ト蔵家のたたら経営」、「鉄師絲原家」、「ト蔵家原鉦（叢雲鉦）山内」、「絲原家鉄穴鉦山内」、『奥出雲町文化的景観調査報告書―奥出雲たたらと棚田の文化的景観―』、奥出雲町教育委員会、2013年3月刊行予定
- ・仲野義文「山間地域史研究の視座―石見銀山領の村における生産・流通・資本―」、『芸備地方史研究』284号、芸備地方史研究会、2013年掲載予定
- ・中安恵一「近世石見の民間芸能と海付村落―村落生活史から見た盆踊り・祭礼―」島根大学大学院人文科学研究科2012年度修士論文
- ・廣嶋清志「幕末における人口機構の地域差―石見銀山領に見る」、落合恵美子編『徳川日本の家族と地域性―歴史人口学との対話』ミネルヴァ書房、2013年3月刊行予定、査読無
- ・伊藤康宏「明治初期の漁業制度変革―島根県「漁業場区」を事例に―」、『国際常民文化研究叢書2』神奈川大学、2013年3月刊行予定
- ・伊藤康宏「島根県漁業の現状・課題と漁業協同組合JFしまね、漁業生産組合」、『しまね農政研』349、2012年11月、pp.20-25
- ・松尾匡・橋本貴彦「なぜ医療機関は医師が経営するのか」、『立命館経済学』第61巻第6号、査読無、（掲載予定）、2013年。
- ・橋本貴彦「島嶼経済における医療サービス提供の持続性」、『山陰研究』第5号、2012年
- ・橋本貴彦・山田彌「マルクス価値論と「新解釈」学派：総利潤・総賃金比率と剰余価値率」、『立命館経済学』第61巻第6号、（掲載予定）、2013年
- ・桑田但馬・関耕平・内山昭・橋本貴彦「過疎地域における公的医療供給の事例分析：岩手県沢内・藤沢両モデル、島根県隠岐モデルの成果と教訓」、『医療経済研究』24(1), 33-55, 2012年11月、査読有り
- ・作野広和「島根県江津市における空き家の利活用による中山間地域の維持・再生」、『商品化する日本の農村空間』（農林統計出版）、査読有、257-281、2013年2月。
- ・作野広和「島根県中山間地域における集落再編の実態と空間的特徴」島根地理学会誌、47、査読無、（掲載予定）、2013年3月。
- ・藤山 浩「地元を創り直す時代～「規模の経済」から「循環の経済」へ」、『町村週報』（全国町村会）、Vol2804、（招待論説、査読無）、2-5、2012年6月
- ・藤山 浩「田園回帰を受けとめる地元の創り直し～2015年危機を乗り越えて」、『住宅』（社団法人日本住宅協会）、2012年11月号、（招待論説、査読無）、27-34、2012年11月

●学会発表（代表的なものを数件記入して下さい。）

- ・作野広和「島根県中山間地域における無住化集落（続報）」2013年度日本地理学会春季学術大会、立正大学、（発表予定）、2013年3月29日～30日
- ・伊藤康宏「漁業法以前の漁業制度史研究と二野瓶徳夫」第6回水産史研究会・共通論題：二野瓶漁業史学の成果と展望、神奈川大学国際常民文化研究機構、2012年9月30日午前、
- ・鳥谷智文「鑪・鍛冶屋山内における空間構成の特徴とその利用についての試論―絲原家・ト蔵家における鑪・鍛冶屋山内を事例として―」たたら研究会 平成24年度京都大会、同志社大学継志館、2012年12月15日16時15分～16時55分
- ・北山幸子「全国ブランドを生みだす畜産漁業―隠岐牛を中心に―」日本島嶼学会大会、島根県隠岐郡海士町、2012年9月8日～9月9日

●特許出願

⑦ 外部資金獲得状況（当該プロジェクトに関連した外部資金について一覧の各項目に総件数、金額を記入して下さい。）

■外部資金獲得状況一覧

外部資金獲得状況一覧		件数	金額(千円)
(1) 科研費 (配分額は間接経費を含む)		3	配分額 3030 千円
(2) 科研費以外の外部資金	受託研究		
	共同研究		
	寄附金・助成金		
	合 計		

【一覧内訳】

(1) 科研費（科目ごとに、テーマ、研究者、金額をそれぞれ列挙してください。）

（例）基盤(A)「研究テーマ」(研究者:〇〇) 〇〇〇千円

- ・基盤研究(C)（一般）「集落の無住化に関する人文地理学的研究」（課題番号 24520891）

作野広和 1820 千円

- ・若手研究（B）「日本近世における宗教論争の地域的構造に関する研究」（課題番号 21720233）

小林准士 910 千円

- ・基盤研究（B）（一般）「企業体形成型協同組合の制度的実態的特性と社会的意義に関する産業分野横断的研究」（課題番号 233801322B）

伊藤康宏 300 千円

(2) その他外部資金（一覧の項目別に、テーマ、研究者、金額を列挙してください。）

（例）受託研究「研究テーマ」(事業名)(研究者)〇〇千円

⑧ その他特筆すべき成果（受賞、シンポジウムの開催、産学連携・地域連携に関する各種見本市、展示会への出展等も含む。）

○重点研究プロジェクト市民講演会

- ・橋本貴彦「未公開統計資料から見える戦前『大田市』の姿」

日時：2月24日（日）午後1時～4時

場所：大田市民会館社会福祉協議会会議室

○招待講演

- ・作野広和「農山村の新しいコミュニティ—小規模・高齢集落を中心に—」中山間地域フォーラム6周年記念シンポジウム（2012年7月1日、東京大学）
- ・作野広和「島根県の集落が抱える現状と課題」平成24年度島根県公民館研修会（東部会場）（2012年12月12日、安来節演芸館）
- ・藤山 浩「中山間地域から始まる「地元の創り直し」～田園回帰の時代の始まり」、シンポジウム1『農村の環境保全と持続可能な開発』口頭発表（第61回日本農村医学会学術総会）、2012年11月
- ・藤山 浩「自然と共生する地元の作り直しを～都市・中山間地域における同時人口減少時代と日本版田園回帰の可能性」、公開シンポジウム『人口減少社会における野生生物管理』基調講演（第18回野生生物保護学会大会）、2012年11月
- ・竹永三男「初代松江市長・福岡世徳の旅と松江振策」城北公民館40周年記念式典記念講演（2012年12月9日、松江市城北公民館）
- ・中安恵一「近世石見の民間芸能と海付村落—村落生活史から見た盆踊り・祭礼—」シンポジウム「日本海域の文化交渉と出雲・石見・隠岐」、2013年2月10日、古代出雲歴史博物館

○報告書作成

- ・作野広和・佐伯 綾「島根県における無住化集落の分布と発生要因」（調査報告書）、2013年2月、123p.
- ・作野広和・森田敦裕「島根半島における漁村の存立基盤とその変化」（調査報告書）、2013年2月、154p.

○新聞掲載

- ・「消えるむら看取るひと」朝日新聞5月10日夕刊記事（作野広和による調査実績の報道）
- ・「島根県内82集落『消滅』」山陰中央新報7月1日記事（作野広和による調査結果の報道）
- ・「無住化82集落が示すもの」山陰中央新報7月12日記者リポート（同上）
- ・「消える・・・県内82集落」朝日新聞10月5日朝刊記事（同上）
- ・「戦後に無住化82集落」中国新聞1月15日朝刊記事（同上）

○本プロジェクトの研究例会

第1回

日時：6月22日（金）16時15分～17時45分

場所：島根大学法文学部地域交流スペース

報告題：島根県の人口転換

報告者：廣嶋清志・橋本貴彦

第2回

日時：7月27日（金）16時15分～17時45分

場所：島根大学法文学部地域交流スペース

報告題：初代松江市長・福岡世徳研究

報告者：竹永三男

第3回

日時：9月11日 午後13時～

場所：あすてらす（大田市）

報告題①：石東地域の商品流通と廻船業の活動について

報告者：仲野義文

報告題②：明治初年の島根県「漁業場区」制度変革－邇摩郡静間村和江浦の漁業紛争を中心に－

報告者：伊藤康宏

報告題③：島根県中山間地域における無住化集落の分布と空間的特徴－島根県における集落の盛衰に関する動態的研究に向けて－

報告者：作野広和

第4回

日時：10月26日（金）16時15分～17時45分

場所：島根大学法文学部地域交流スペース

報告題：石見国幕領大森代官所における献金と貸付金仕法

報告者：小林 准士

第5回

日時：11月30日（金）16時15分～17時45分

場所：島根大学法文学部地域交流スペース

報告題：浜田藩領における産業の特徴について－「明治二年 旧浜田藩引継雑款」（島根県立図書館所蔵）にみえる事例の紹介－

報告者：鳥谷 智文

第6回

日時：12月21日（金）16時15分～17時45分

場所：島根大学法文学部地域交流スペース

報告題：安濃郡波根西村竹下家の廻船経営について－住吉丸勘定帳の分析から－

報告：仲野 義文

第7回

日時：1月25日（金）16時15分～18時

場所：島根大学法文学部1階地域交流スペース

報告題：海士町における財政再建と地域再生政策の展開－攻めの政策にみる地域再生へ向けた投資戦略－

報告者：関 耕平

第8回

日時：2月27日（水）16時15分～17時45分

場所：島根大学法文学部多目的室1

報告題：大田市内旧役場文書史料・資料の研究活用に向けた取り組み

報告者：橋本貴彦

⑨ 本年度の主要な研究成果（図、表、ポンチ絵などを多用して、2ページ以内にわかりやすくまとめてください。）

以下、AからDは本年度の計画概要と対応している。

A 歴史資料の所在確認と研究基盤の整備と社会貢献

山陰地方は、行政機関による歴史資料や公文書の整理と公開が、他と比べて著しく遅れた地域である。このため、本プロジェクトでは、資料の所在確認とともに、整理作業にあたっても自治体に協力することで、利用公開に向けた取り組みを進めてきた。特に**大田市役所蔵の旧町村役場文書**は、質・量ともにすぐれたものであるにも拘わらず、その存在さえ知られてこなかったが、昨年度来続けてきた整理と写真撮影によって、漸くその価値の一端を社会に公表できるようになった。

B 山陰地方における人口動態の特徴の把握

島根県という地理的単位で、18世紀から現在にいたるまでの人口推移を推計すると、1955年ごろを境に人口が増加から減少へ転じていることが知られる。しかし、これは県全体で見た場合であって、県内の各地域に即して見ると、特に19世紀以降、人口の増減には著しい地域差のあることが本プロジェクトにより明らかになりつつある。例えば、松江市では明治初期から人口が全国の地方都市と同様に著しく減少するが、太平洋側の都市に比べ増加に転ずる時期が遅く、漸く1890年代に増加し始めるようになる。一方、19世紀初め頃から、**海岸部の村落では山間部に比べ人口の増加が著しい**が、20世紀初頭には停滞に転じる。さらに地域によっては、すでに戦前から人口の減少が始まっていた町村も確認できる。本プロジェクトでは、特に**A**で触れた**大田市役所蔵の旧町村役場文書**中に確認できる統計資料により大田市内については詳細な分析を行い、こうした地域による人口動態の違いをその要因も含めて解析中である。

また、昨年度来、島根県内で人が戦後以降に住まなくなった「無住化集落」を確認する作業を進めており、県内約5千集落について聞き取りや現地確認を通じて、**82集落が無住化したこと**を突き止めた。その結果、特に石見地方に多いこと、益田市の山間部や江津市の川平地区など特定の地域に集中的に見られることなどの傾向も見出すことができた。このうち、**川平地区**は近世後期から近代にかけては、たたら製鉄が盛んとなったところであり、19世紀には人口増が著しい地域であることも判明したが、製鉄業や木炭生産の衰退に伴い人口の流出が起こったことなども判明した。

C 産業・流通の歴史的変遷の解明

地域における人口の増減と産業の消長が相互に関連していることは容易に想定できるが、地域差が生じる要因も含めて具体的に検討した研究は少ない。このため、本プロジェクトでは、石見地方東部の沿岸地域を中心に、産業の分布と流通の発展状況を調査した。その結果、当該地域では、**たたら製鉄の発展と商業的な性格を有する廻船経営の展開**との間に相互的な関連を見出すことができた。特に後者による原料の安定供給と販路の拡大が製鉄業の成長を支えていることを明らかにすることができた。あわせて幕末期の石見国銀山料（幕領）において幕府に献金する有力者が沿岸部に集中することなども確認できたが、その理由は上記の沿岸部における経済発展に伴うものと推定できる。また、こうした廻船経営の展開による日本海側沿岸地域との交流の拡大が、地域の芸能文化等の形態にも影響を与えていることが検証できた。

一方、近代に入ってから統計資料を検討した結果、昭和初期の段階で島根県内の各市町村間には、一人当たりの商品生産額の面で著しい格差が生じていたことが判明した。例えば、松江市と石見国漕摩郡内の町村とでは、3倍以上の開きのある場合もあった。このような格差は、20世紀初頭前後における産業の消長や人口動態の地域差と関わって生じた可能性が高く、今後の詳細な分析が課題であることが明確となった。

D 地域振興策の過去と現在

地域振興策については、近代の松江市と現代における隠岐島・海士町の事例を中心に調査研究を進めた。**B**で触れたように、松江市は1890年代まで人口減少過程にあったが、その後、振幅を繰り返しつつも、1905年以降は人口の上昇過程に入る。この頃、初代の松江市長を務めた福岡世徳の地域振興策である鉄道の敷設、陸軍師団（聯隊）誘致、馬潟港浚渫などの具体像とそれらの連関について明らかにした。

また、近年、地域再生に向けた取り組みが注目される自治体として海士町を取り上げ、その成功の背景に、財政再建という守りの側面と、国からの零細補助金と有利な地方債の活用による産業振興という攻めの側面があることを明らかにした。

⑩ 研究成果の教育への還元について

(計画書の内容を踏まえて、今年度取り組んだ内容を記入して下さい。)

今年度から、プロジェクト・メンバーに人文科学研究科修士2年生の中安恵一君(指導はプロジェクト代表の小林)を加えたため、彼に資料の収集や整理等にも参加してもらうとともに、修士論文作成のための調査研究を通じてプロジェクトの研究の一端を担ってもらった。

具体的には、修士論文において、近世後期における石見国邇摩郡、安濃郡の村々(石見地方東部に沿岸地域にあたる)について、人口動態や村落構造を明らかにするとともに、廻船経営の動向や廻船業者の村(馬路村)における役割や文化的影響などについて分析がなされた。この修士論文の作成にあたっては、本プロジェクトの調査による資料や研究例会での議論の成果も活かされている。

また、島根県内における無住化集落の調査にあたっては、教育学部の学生にも参加してもらっており、現地におけるフィールドワークや卒論の作成にも役立っていると判断される。

⑪ 若手研究者育成プランについて

(計画書の内容を踏まえて、今年度取り組んだ育成プランについての取り組みの結果を記入してください。)

若手研究者育成プランという項目では計画書に盛り込んでいないが、⑩の修士論文の作成指導に本プロジェクトが関わっており、若手研究者の育成に繋がったと考えられる。